

み や さ き も り

宇都宮の防人



宇都宮駐屯地公式HP



駐屯地マスコットキャラ
『宇駐人』くん

<https://www.mod.go.jp/gsd/utunomiya/utsunomiyahp/index.html>



カンボジア王国陸軍に対する 要人警護に係る技術指導



オープニングセレモニーの様子



カンボジア王国陸軍司令マオ・ソパン陸軍大将との懇談



不測事態対処要領の指導



車両乗下車時の隊形指導

中央即応連隊（連隊長 後藤仁志 1等陸佐）は、令和7年5月23日（金）から6月10日（火）までの間、カンボジア王国において実施された「令和7年度カンボジア王国陸軍に対する要人警護に係る技術指導」に陸上自衛隊教官団として参加し技術支援を担任した。

本技術指導は、カンボジア王国陸軍の教官要員に対し、要人警護の技術指導を実施して同軍の要人警護に係る練度を向上させるとともに、陸上自衛隊とカンボジア王国陸軍の相互理解・信頼関係の強化に寄与することを目的に行われた。

26日、オープニング・セレモニー実施後に「警備概説」の座学から教育が始まり、翌日から被教育者を数個のグループに分け「警護隊形」「車両乗下車要領」「屋内通過要領」等の課目を開始した。教育開始当初は、不自然だった各人の動作も、数日で警護班内の意思疎通や連携がスムーズにできるようになった。教育間カンボジア王国陸軍の隊員は、熱心に教育に取り組んでおり、不明な点があれば積極的に質問し、メモを取るなど教育内容を漏らさず全て吸収しようという熱意にあふれていた。教官たちは、言葉の説明のみならず、地面に要図を描画するなど理解容易な様に教え方を工夫し、実習時には隊員個人の動作や班内の連携要領について熱心に指導した。この教育期間を通じて両国の隊員は、お互いに言葉の壁を越えて強固な信頼関係を築くことができた。

教官団は、訓練最終日である6月4日にカンボジア王国陸軍司令官マオ・ソパン陸軍大将との懇談において、司令官から直接本教育に対する感謝の言葉を頂いた。教官団長である本部管理中隊長は「貴国の隊員た

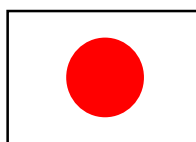
ちは、私たちが教えた技術や知識をしっかりと吸収して、カンボジアの要人及び国を護るために働いてくれるものと確信しております。一と訓練の成果を述べた。



着任の辞を述べる連隊長



巡 閲



第9代 中央即応連隊長着任

中央即応連隊は、令和7年3月17日(月)宇都宮駐屯地において、第九代中央即応連隊長に後藤仁志一等陸佐を迎え、着任式を挙行した。

後藤1佐は、着任の辞において「我々の究極の目的は、いついかなる状況においても任務を完遂することである。任務を完遂することのみこそが、我々の存在意義である。」と述べられ、統率方針に『任務の完遂』要望事項には『責務を全うせよ』『仲間と家族を大切にせよ』を掲げ「連隊に付与された任務を完遂するためには、各人が自らの責務を深く認識し、それを全うすることが極めて重要である。」

「仲間と家族は任務遂行の基盤であり、任務遂行の源である。連隊は一つの家族であると認識している。」と思いを伝えた。



国旗掲揚の様子

陸上総隊直轄部隊演習 (DGPE)

#24DGPE派遣準備完了



デモへの対応訓練

中央即応連隊(連隊長 後藤仁志 一等陸佐)は、令和7年5月宇都宮駐屯地において、陸上総隊直轄部隊演習(DGPE)を実施した。本演習は、駐屯地内にジブチ共和国における自衛隊活動拠点を模した施設を構築し、#24DGPE派遣要員に対して、現地での恒常的な業務遂行要領を習熟させることを目的に3夜4日の連続状況下で実施された。

訓練終了後には研究会が実施され、各種状況に対処する能力が高く評価された。また派遣隊員からは、「長期間の任務に対して不安が多くあったが、この訓練を通じて多くを解消する事ができた。自信を持って任務に邁進したい。」との声を聞くことができた。



令和7年度 野戦特科部隊等射撃訓練



実射検閲

東部方面特科連隊第2大隊（大隊長 森温 2等陸佐）は令和7年5月19日～6月6日までの間、令和7年度野戦特科部隊等射撃訓練に参加して長射程射撃訓練度の維持向上を図るとともに、大隊等訓練検閲を受閲し部隊の火力戦闘に係る練度の評価判定を受けた。
宇都宮から北海道矢別演習場までフェリー移動を除く片道500km以上の戦略機動を実施した大隊は、実射練成及び状況下での実射検閲から引き続き訓練検閲を受閲した。各人がそれぞれの任務を完遂し、本検閲受閲により得られた成果及び教訓事項を今後の更なる任務遂行能力向上への資とした。



NBC対処



通信網構成



対空警戒

東富士・相馬原演習場定期整備



(東富士)



(相馬原)



第307施設隊（隊長 岡部信幸 2等陸佐）は、令和7年4月7日～18日までの間春季富士演習場定期整備に、令和7年5月9日～17日までの間相馬原演習場定期整備に参加した。
各演習場の機動路整備任務を担任・実施し、演習場使用部隊がより効果的かつ円滑な訓練を実施できるよう、工程管理及び安全管理を適切に行い、整備任務を完遂するとともに、各級指揮官の指揮・指導能力及び各隊員の施設機械操作能力を向上することができた。